

黄金町バザール 2018 アーティスト資料

7カ国 17組のアーティストは、①国内外に向けて実施した公募、②当法人と連携する海外のアート団体による推薦、③黄金町アーティスト・イン・レジデンス（AIR）プログラム参加アーティストからの選出の3つの方法によって決定しました。なお、アーティストらは7月中旬より順次黄金町での滞在を開始し、約2ヶ月にわたる制作期間を経て新作を発表します。また、会期中も滞在を続け、様々なイベントを実施する予定です。

- (1) 安里慎^{あさとしん}+許田盛哉^{きよたもりや}+etc. [沖縄]
- (2) 安部泰輔^{あべたいすけ} [大分]
- (3) 大野光一^{おおのこういち} [東京]
- (4) 近あづき^{こん} [黄金町 AIR]
- (5) 谷耀介^{たにようすけ} [神奈川]
- (6) 葉栗翠^{はぐりみどり}+イクタケマコト [黄金町 AIR]
- (7) 人見紗操^{ひとみさあや} [黄金町 AIR]
- (8) メランカオリ [茨城]
- (9) RED Profile (嶋山文香^{れっど・ぶるふいーる しまやまふみか}) [黄金町 AIR]
- (10) 山本アンディ^{やまもと}彩果^{あやか} [黄金町 AIR]
- (11) エスクリ [フィリピン]
- (12) インスタント・コーヒー [カナダ]
- (13) キム・ミファ [韓国]
- (14) イ・スンハ [韓国]
- (15) スピーク・クリプティック [シンガポール]
- (16) フィ・ティエン・ムイエン [ベトナム]
- (17) 蔡坤霖 (ツァイ・クエンリン)+山田哲平^{やまだてつぺい}+林子皓 (リン・ズハオ) [台湾、日本]

アーティストプロフィール

(1) 安里慎+許田盛哉+etc. Shin Asato + Moriya Kyoda + etc.

沖縄県の元違法風俗店街だった旧・真栄原社交街「新町」地域で許田が運営する PIN-UP Gallery を、「PIN-UP Gallery Pop Up Store」として黄金町に出現させる。一時的に現れ、変化し、消えていくインスタレーション作品としての「ポップアップ・ストア」を展開し、地域やスペース間の差を飛び越えて経験の共有と交流を目指す。

PIN-UP Gallery / © Moriya Kyoda



安里慎：1984年沖縄県生まれ。琉球大学人間科学科を卒業後、沖縄県立芸術大学へ進学し制作活動を始める。2016年-2017年ミュンヘン美術院研究生。絵画・ミクストメディア・インスタレーションを主軸に、光、水、風といった自然の「気配」に興味を持ち、制作を行っている。

許田盛哉：1988年沖縄県生まれ。キャッツアイ所属(モデル)。元違法風俗店街だった旧・真栄原社交街の通称「新町」地域で2011年から住民として暮らしながら自宅を改装、2017年5月にPIN-UP Galleryをオープン。展覧会を中心に、アコースティックライブやイベントの主催、撮影スタジオとしてスペース提供を行っている。店名の「PIN-UP」は、以前父親が真栄原で営業していたミュージックバーの名前から。近年の展覧会に石川竜一の個展「adrenami(a)x」(2018)など。

(2) 安部泰輔 Taisuke Abe

1974年大分県生まれ、同県を拠点に活動中。古着やハギレを使って小さな立体(ヌイグルミ)を制作し、そのプロセスも含めて作品とする観客参加型のインスタレーションを全国各地の美術館やアートフェスティバルで展開する。

黄金町バザールは2010年、2011年に参加し、今回で3度目となる。



ワークショップ「ふしぎの森の美術館」2010年
Photo by Takashi Kubo

(3) 大野光一 Kouichi Ohno

1987年東京都生まれ、在住。2012年武蔵野美術大学造形学部油絵学科油絵専攻卒業。人の「顔」をモチーフに平面作品、立体作品を制作。人の顔の向こう、薄い皮膚の裏側にあるその人の魂のようなものを捉える。



《空を支える二本の柱》2018年
Photo by Hirofumi Tani

(4) 近あづき Aduki Kon

1986年千葉県生まれ。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科ファッションコース卒業。編み物手法を用いた立体作品の制作と並行し、ファッションブランドへの作品提供、サンプル・衣裳の外注制作を開始。生物と無生物の間のようなものを作る。2014年より黄金町AIRプログラム長期レジデンスに参加している。



《tree》2009年

<本リリースに関するお問い合わせ>

黄金町エリアマネジメントセンター (広報担当：立石、植田) Tel: 045-261-5467 E-mail: info@koganecho.net

(5) 谷耀介 Yosuke Tani

1992年京都府生まれ。現在は神奈川県を拠点に活動。2015年立命館大学映像学部卒業。在学中にアトリエ Rojue でデッサンを学ぶ。2018年東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修了。アニメーション制作をベースにしながら、インタラクティブな作品やインスタレーションの制作に取り組んでいる。



《くらまの火祭り》2017年
© 2017 Yosuke TANI / Tokyo University of the Arts

(6) 葉栗翠+イクタケマコト Midori Haguri + Makoto Ikutake

伸び代無限現代美術作家・葉栗翠と、超売れっ子イラストレーター・イクタケマコト、二人の奇天烈ファッションistaが黄金町バザール 2018 のために組んだユニット。今回は、Tシャツで空間を満たし、シルクスクリーン・プリントを使ったワークショップを行う予定。



黄金町バザール 2018 展示イメージ画像

葉栗翠：神奈川県生まれ。2009年に武蔵野美術大学卒業後、中国へ渡り、2012年に帰国。その後本格的に絵描きとして活動始める。現実の場面を平面に描き、それを元に立体作品も制作。モチーフとして選んだ土地の、普段は見過ごされている記憶を呼び起こす。複数の現象が1つの現実になったり、1つの現象が複数の現実になったりすることに関心を持つ。2015年より黄金町 AIR プログラム長期レジデンスに参加している。

イクタケマコト：福岡県生まれ。現在は神奈川県を拠点に活動。イラストレーターとして、広告、雑誌などのイラストを数多く手がける。子ども向けにイラストのワークショップを行い、アートを身近に感じる活動を続けている。2015年より黄金町 AIR プログラム長期レジデンスに参加している。

(7) 人見紗操 Saaya Hitomi

1987年東京都生まれ。東京都と神奈川県を拠点に活動。2009年武蔵野美術大学を卒業、2018年東京藝術大学大学院修了。その間2015年にウィーン美術アカデミーに留学し、ポリティカルな表現を多く目撃する。他者は可能性としての自分自身であるという考えのもと、映像作品やインスタレーションなど、メディアに限らず表現する。2017年より黄金町 AIR プログラム長期レジデンスに参加している。



黄金町バザール 2018 出品予定の新作《鳥男》のイメージ画像

(8) メランカオリ Melan Kaori

1991年神奈川県生まれ。2017年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。現在、茨城県で古文の講師をしながら、占術の知識を用いて「土星プロレス」や「霊合カラオケ」と称した独自のセラピーを展開している。主な受賞歴に、「ゲンビどこでも企画公募 2016 藤本由紀夫賞」(広島市現代美術館、広島、2016)がある。



《鏡色の研究》2017年

(9) RED Profile (嶋山文香) RED Profile (Fumika Shimayama)

1986年神奈川県生まれ。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科ファッションコース卒業後、都内セレクトショップでの洋服の販売が決まり、ファッションブランド「RED Profile(レッドプロフィール)」としての活動を始める。その後アパレル合同展示会への参加や、単独展示会を開催しながら年2回(春夏・秋冬)のコレクション発表を続けている。2012年より黄金町AIRプログラム長期レジデンスに参加している。

《だれにも見つけられない》2018SSコレクションより



(10) 山本アンディ彩果 Andy Ayaka Yamamoto

1992年神奈川県生まれ。自分と他者との感情のやりとりを見つめ、その目に見えない形態、動き、匂い、音などの可視化表現を行う。現在は認知症の祖父と二人暮らしをしながら「忘れられた記憶」をテーマに、「砂糖漬け」の手法を用いたシリーズ作品の制作をしている。「自分自身の今」を表現し続けるアーティスト。2018年より黄金町AIRプログラム長期レジデンスに参加している。



《エターナル・ストーリー》2016年～

(11) エスクリ Escuri (Jett Ilagan)

1991年フィリピン生まれ。ラグナ州サンタ・ローザを拠点に活動。本名はジェット・イラガン、アーティスト名はエスクリ。作曲家、サウンド&ビジュアルアーティスト。ある文化に見られるサウンドスケープの特徴的な音を抽出し、都市や郊外の特徴を捉えることができるフィールド・レコーディングの手法を探る。公的、私的という枠組みにとらわれず、様々な場所・状況で電子音楽パフォーマンスを行う。これまでに、アメリカ、イギリス、オランダといった国々の音楽プロデューサーと共同制作を行ってきた。



フィリピン・バギオでのパフォーマンス風景, 2016年

(12) インスタント・コーヒー Instant Coffee

カナダのバンクーバー州ウィニペグと、韓国のソウルを拠点とするアーティスト集団。主にインスタレーションやイベント形式で作品を発表する。彼らは、隔離されたスタジオ空間でもなく、従来の展覧会様式でもなく、新しい枠組みのなかで思考し、モノと向き合い、実践することが可能な開かれた場を作り出す。また、フォーマルなレクチャーや上映会から、カジュアルな集会やワークショップまで、幅広いイベントの会場となる空間をインスタレーションとして捉える。



《Perpetual Sunset / Say Nothing in Bright Colours》
2012年

(13) キム・ミファ Kim Mihwa

1989年韓国生まれ。ソウルを拠点に活動。サンミョン大学にて絵画を学ぶ。どのようにして自然と人間の営みが交わることができるのか考察し、両者の共存をはかるような空間をつくりだす。彼女は世界に内在する意味を探り、日常のささいなことに思いを巡らし表現する。今回は公益財団法人トヨタ財団2016年度国際助成プログラムの一環として、子どもたちとともにパブリックアートを制作する。



《Breath》2017年

(14) イ・スンハ Lee Seungha

1971年韓国生まれ。現在光州を拠点に活動。2015年にパリ第8大学を卒業後、2009年に修士号、2011年に芸術哲学で博士号を取得。大学在籍時、現代芸術論に加え、写真、インスタレーション、インタラクティブな映像作品、ニューメディアといった幅広いジャンルに触れた。数多くの国際的なレジデンスプログラムや展覧会に参加。Space Ppong(韓国)による推薦。



《The Untitled Space #6》2017年

(15) スピーク・クリプティック Speak Cryptic (Farizwan Fajari)

1980年シンガポール生まれ、同地を拠点に活動。本名はファリズワン・ファジャリ、アーティスト名はスピーク・クリプティック。漫画やアンダーグラウンドな音楽シーンに通底する視覚的要素に影響されながら、主に「人間であることとはなにか」という問題に焦点を当てる。数年かけて発展させた特徴的な描き方と、彼オリジナルのキャラクターを用いて、現代の様々な事象や、自身を取り巻く環境を観察することで、物語を生み出し、それに形を与える。



《State of Decline》2018年

(16) フイ・ティエン・ムイエン Thuy Tien Nguyen

1993年ベトナム生まれ。サイゴンを拠点に活動。彼女は数年前にベトナムのアートシーンに登場し、絶えず表現領域を拡大しつづけ、写真、映像、テキスト、インスタレーション、パフォーマンスといったさまざまな方法で実験を行っている。隠蔽と暴露、私的なものと公的なもの、制限と自由といった相対するものを自在に操り、事実とフィクションを織り交ぜながら、自身の個人的な細部や秘密を、それが不快なものであっても言葉にできないものであってもさらけ出す。彼女が生み出す物語は、鑑賞者を不安定な状況に置き、惑わし、自身が立っている場所を揺さぶる。Zero Station(ベトナム)による推薦。



《Belonging 1.021?》2018年

(17) 蔡坤霖 (ツァイ・クエンリン)+山田哲平+林子皓 (リン・ズハオ)

Tsai Kuen-Lin+ Teppei Yamada+ Lin Tzu-Hao

黄金町バザール 2010 に参加した蔡坤霖 (ツァイ・クエンリン) が秋吉台国際芸術村 (山口) で知りあったアーティスト・山田哲平とともに、横須賀で海洋研究を行う林子皓 (リン・ズハオ) と協働し、水中の音に関する作品を制作する。

蔡坤霖 (ツァイ・クエンリン) 《伏流II》2013年



蔡坤霖 (ツァイ・クエンリン)：1979年台湾生まれ。現在台北を拠点に活動。国立台北芸術大学ニューメディア・アート研究科修了。作品の基本要素として音とプラスチックのパイプを使う。人々が空間や場所に対して普段抱いているあまり鋭いとは言えない感覚を活性化するために「聴くこと」を巧みにあやつる。

山田哲平：1979年東京都生まれ。現在神奈川県を拠点に活動。2009年広島市立大学芸術学研究科博士前期課程修了。幼少期の子役の経験が制作に大きく関わり、音や映像、動力を使ったアプローチで世界の構造を読み解くための装置として作品を制作している。2018年にグローバル社会の構造と人間の根源的な要素の類似性をテーマにした《Apart and/or Together》が ifva awards (香港アートセンター) でシルバー賞を受賞する。

林子皓 (リン・ズハオ)：1988年台湾生まれ。2013年国立台湾大学にて博士号取得後、海洋研究開発機構で研究を進めるため、2018年に横浜へ移住。特に、海洋サウンドスケープとエコロジーを専門とする。台湾サウンドスケープ研究事業の共同創始者であり、また IQOE (International Quiet Ocean Experiment) において海洋生物多様性が見受けられる場所での音響測定を行うグループのメンバーでもあり、自然環境サウンドスケープのデータ公開に寄与している。